
歩哨

柴大

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歩哨

【Nコード】

N3380B

【作者名】

柴大

【あらすじ】

俺は夜の街に立ち続けて数十年。その間様々な奴らと出会いそして別れてきた。この街も変わった。変わらないのは俺だけかもしれない。俺にもそろそろ引退の時が近づいているのだろう。

俺はこの街でこうして何十年も立ってきた。

その間様々な奴らと出会いそして別れを繰り返してきた。

今では俺ただ独りがこうして立ち続けている。

色んな奴らがいた。

今でもふと奴らの事を思い出し、己の過ごして来た時間の長さに愕然とする。

俺もこの街を離れ別の街で暮らそうと思わなかった訳ではない。

だが動けなかったのだ。

俺を必要としてくれた奴ら。そんな奴らを置いてこの街を離れることなど出来るわけがなかった。

そして時が流れ、俺だけが残りかつての仲間たちは一人また一人と姿を消していった。

この街を離れなかったことを悔やまないでもないが、今となってはこの街の行く末を見届けようと思う。

それが最後まで残された俺の使命だろう。

やはり俺はこの街を愛していたのだ。

眠らぬ街。今日もこの街の何処かで悲しみが生まれ、憎しみへと変わり、そして誰かが傷つく。

それでも俺はこの街で立ち続けよう。

それが俺の使命だから。

誰から必要とされなくなった時、その時こそ俺がこの街からいなくなる時だろう。

そろそろ夜が明け新しい一日が始まる。

やがて定刻通りに、オレが一晩中見張り続けた荷物を取りに男がくるだろう。オレがここに立ち続けてあの男で何人目だろう。あんな気の弱そうな奴がはたしてこの街で生き残れるのだろうか。だが、この街では臆病者でなければ生き残れないのかもしれない。かつて、

男気に溢れていた奴も、勇敢だった奴も、みな消え去ってしまった。
そろそろ俺の一日の任務が終わる。

そう、俺は歌舞伎町の郵便ポスト。

（後書き）

ポストかよ！てな突っ込みを頂ければ幸いですW こんな感じの短編を何本か続けようと思いますので、また読んでやって下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3380b/>

歩哨

2010年10月28日03時18分発行